



Eldonas Kou MUKAI

2-12-12, ASAHIIMACHI, ABENO, OSAKA JAPAN 532

4. OKT. 1983 N-10 271

·通信

大阪市阿倍野区旭町2-12-2 向井 崇

▼前略イオラの娘であるルリ子はんが「ハイ配れてる。びつくり」と云つてゐる
で、「ああホンマやなー」とうつとがつくり。「ガリバリヤ一歩」「あんなど」「ト手
でもヒヒ。取つてかくせり」ちり・マスコからさあおやじ・おおおお・歌わべ」とねえ
いつも細川町へ通勤か・もうメタメタや。(ニヤニヤは・手が自由にうごめかぬ)。書
きつむじやると、氣分かぐわい・ボーッと眺めかねてこゝ・トキ田はんぶんせりある
人やら・半分はカンでかこてる)「アーリ・歌をうたおうか・おおじよーぬ・んいか
かんべんしてた」。299号どうまでおさげくがんばりだ。

▼一九二〇年八月、母へせんのやりせれだわけだ)。母への父の手紙は五十六。そ
の前年・スペイン風邪でロスのまへの病院を出でてした若く貧乏にひびりじとつて、
それはどくなんことだつたから。(父は学生・母は看護婦の勉強に東京へ出ていて知
り合つたらしく)の実家から世間のうれしが・半世紀危状態で・色々も東京で生れた。
これまで、自分の誕生日・父の誕生日など、全く祝ふことが出来なかつたのに・やつぱ
しハモリハモリハモリのが。(の母の手記)

誰と判る。その誰かとあつて
交流用大掲示板の、そのへき
一端にて申入らべておう。

誰と戦る。その誰かとあつて話したじとキ、セ・ヨレーニある
交流用大掲示板の、そのぐの番号の下に、ソンドラデ・タ
ーをとめて申込む。どういうような設営が、一そうちそれを効
果的(ヒーリング)。

8月2日(火) 朝6時半起床。京都高島屋前にみんなと久しぶりに落合つて御食事センターへ。12時半三条河原町会場へ。4時から大阪全国模合シンポジウム

△。 昨日、投宿後、交流会・長野の坂田さん岩崎さん金次の林さんらが部屋を訪ねてきて、丁度明日やるへ宣伝戦争論への報告打合せ中に加わって、意見をきいたりの懇談。就寝〇時半。翌日10時から分科会。15時から全体集会。4時すぎ解散。京都で夕食をとつて・大阪へ。帰宅21時。

（八戸の久保さん宿泊。）

（金子）

ほどの今ある経験では、金口大金といつてもその最大の効用は、(出陣の用意や巡回・研究とする間に)参加者ひとりでも、その機会に持つて、自分の向うの一層にみえない何かでつながつている未知の一人にならなくて、何せかあま他の人に別れていふのが始んどだが、何かさせずみに口をきき、話を交わす一つまご向人の前に親しくなつてゆくもかねぬ想像に友人ができる一瞬にみえるものとしてつながりがあらわれる、ソラヘビ。その上に命運のための時雨や、ロビードの休息タイム、時には寝転びながらあわせるなど、どちらのフリーな時間なども、そして

充分であることが何よりの条件となる。(ア)ログラム(即ち、配慮しなければならぬ必須条件である)

大阪へ帰らず宿泊したのは、もっぱらそのためだったが
10時すぎ女院会が終つて就寝までの二時間ほど以外、びつ
しりプログラムがつまつ置いてすこし残念だつた。

（アリーナ時間）を意識的に大会の意味として規定して、大きな効用をつくり出している。と思つたのは、もう何年前東京でひらかれた世界スポーツアーチ大会だつた。会場ロビーに掲示板がつた。千数百人の出席者名の名札掲示板があり、不在の時は、裏返してある。各人は必ず名札をつけてるのでそれをみれば



→名古屋→静岡→沼津→

大山少佐

▼講演へ立派につけたの枚田を連れて、大山へ出張口りはに山の
中旬の予定) ▼へ実践・非暴力直接行動の原稿を仕上
げるまで、すくなくとも年末までは(とて)に大阪で緊急の
用件がないかぎり)犬山にいる方針。一と二うことにして
のだが、急に思い立つて、金口集会で見た分づけなかつた
代りにと、へ都市の反原発運動論文(約35枚)。それか
ら、8月31日にびらうだへ市民体民運動救援連絡会の
連続講座を一回で出でた。"ビラ貼り"が乗のへあわて

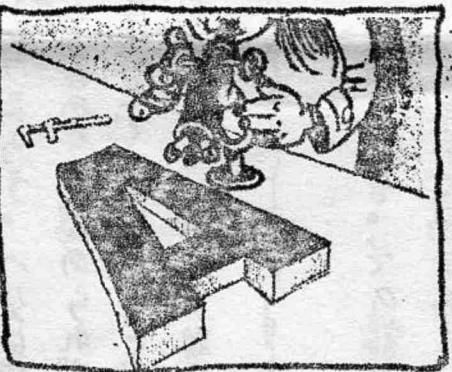
△へ墓を詠歌するの意味

（図六）参列者は圧倒的に老令（平内）で、20代30代は與へたるものだった。つまり若くいへばうとつて、墓前祭や追悼会などより、もつと前向きのところがあるのがあるのだろう。このままでは、もう十年を経てからうに、演えていくべき配がある。

がめるものはいつかはなる。それもしようがない、とまくは思う。それでもよい。だが時代のよくな社会のうどきよりをみると、例えよし「戦争」でも見るうる状況の中では眞新鮮なもとより、墓のは在さえ許され事態が出てくる。「うがい」などと、戦前の「史科教」としている。第一の墓誌銘表題は「いま記念せんがくのとあむせう」。『...愛は神めれむ』としてその生没年四〇と名前がローマ字でかかれ、それ丈では何でもない。び裏面にまわると「...軍國へ、弋モニ殺サル。」でし子を喪年の元に手折られて、あやめお燐が墓となりけり」という、遺恨傳説に奥ぐく父親のあくびが刻みつけられている

墓前祭は八年ほど前にはじまり例年ひらかれているのが、これからこの墓碑を守り下さるなどが、どうもみなあ味をもつが、はつきりと確認しておかねば、「そどとき」になつてからでは、もうおそい。権力が抹殺しようとする前に自ら消じさせてしまつては、その時のことを今から宣言しますから」として、この墓前祭はあることすますをせした政治家・農商さんの方をさへ、アスカントあると想う。

アーネスト・ヘン莱の書簡



卷之三

◎ 結婚＜ハニカム＞の理由を尋ね。夫への効果。
のつかりで可笑でもあつた。やがて十五歳（昭和二年）（三十歳）。（夫の年齢）
やがてハガキで。（昭和四年）（夫の年齢）（三十歳）
▼ 大阪にて新潟の新潟銀行の口座へ、大山にて銀行へ
お金を出しながら通帳。大山の銀行がこゝに代りへん。新潟が、大阪へ
お金を出しながら通帳。大山の銀行がこゝに代りへん。新潟が、大阪へ

① 終業<ヒツヨウジヤム>は田舎者。世へての工作
とたかても反響である。 (新興技術者)

こんな風にいふとそれが何者か
のは、主體着側が、召せしむれんく坐
著名者の、その講義を紹介して、どれ
だけ積極的にへたりゆき誠実に今古以
上の開拓につく出そよとしてしまふか一

す笑つてしまつた。（懲り内さんもういえとか）
この懲り内さんの苦情は、著名者を呼びととの集会主催者の
へに得え／＼又は根本的な自己省察を強いていく。
つまり、本當に主催はそのへの詰を主張したい、といふから困っ
てゐるか。へ事大主義・利用主義・事なきれの安易さで、或は人
あつめを出来るなど一の考えはないかどうか。多少はあると
して、それはどんな程度、どんを窺ひのせのか。」そして「ど

(済)翌16日は計画へ引かれて、大石屋前祭・夜講演。そして18日、又東京で一と二回、まさに東奔西走・寝たぬさんのスケジュールである。へん東大震災における朝鮮人・大杉栄・伊藤野枝・橋宗一重級60年九月連続集会・大地の衛星」と呼ぶ18日の集会は山谷庵凹共闇・A.I.T.O・リベーロなど在日の若い仲間たちが共創してつくつたもので、ぼくはPart IIの18日しか見ることができなかつたが、ひる12時半から13時まで盛り沢山のアロゲラムだったにせがむら、最後までアキヤせなかつた。へあれだけのことを、しかも連続集会でやるのはさぞ大へんやつたろう。集りは150人位…とすこし悪かつたが、戦後、この種の大規模の連続して、最高のものがつたと思う。ところで…

瀬戸内の人々の講演は予定時間から30分ばかり遅れて五時半ごろから。その間隔(?)をつゝて記憶があがみやすくて文書は向う(?)で一「この会場をかりにくくて、さがすのに大苦労だつた。」やへと見付けても、入口に立つてひとつなり。三階まであがつて、さがさず進むこと。それが誰もしゃべり。入口を又付でさあ